

# 「DXの好循環」を生み出すために ～各取り組みの連動によりさらなる関西のDX推進へ～

当会では2022年に策定した「関西DX戦略2025（以下、戦略）」において、関西がDXの先進地域となるためにめざすべき姿を示した。以降その実現に向けて、関西におけるDX推進への機運醸成をはじめ、各地域・企業での具体的なDX推進に資する取り組みなどを着実に積み重ねてきた。今号では、2025年度の活動の概要および今後の取り組みの方向性について紹介する。

## 「関西DX戦略2025」と2025年度の取り組み

戦略では、2025年にめざすべき姿として、官民挙げてDXを推進し、企業・市町村・府県間のカベを越えて、地域間競争力の高い関西を実現することを掲げ、その実現に向け事業を展開してきた。以下に今年度の主な取り組みを紹介する。

### ■「DX-Dojo」の開催

「DX-Dojo」は、DX推進における課題や取り組みを議論し、理解を深めることで、経営層の意識啓発や企業間連携の促進等につなげる取り組みである。今年度は、関西のDX推進を底上げするためには中堅・中小企業への支援が必要との認識のもと活動を行い、当会の中堅・中小企業の経営者らで構成する「メンバーシップ部会」との共催にて5月23日に開催した。講師には、「KANSAI DX AWARD 2024」でグランプリを受賞したコマツの小松智代表取締役を招聘し、事例紹介やディスカッションを実施した。

### ■デジタルキャリア講座等の開催

奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)と締結した「DX人材育成に資する連携協力に関する協定」に基づき、今年度からNAISTの学生を対象とした「デジタルキャリア講座」を開講している。セールスフォース・ジャパンの佐藤亮執行役員がDXの概要について講義したほか、カナデビアの白川哲也ICT推進本部デジタル戦略企画室長が、企業におけるDX推進の取り組みやデジタル技術の活用事例を紹介した。

### ■デジタル技術活用やサイバーセキュリティについてのセミナーの実施

2025年大阪・関西万博で展示・使用された技術テーマとした「デジタル技術活用セミナー」や、サイバーセキュリティの重要性と役割について経営層向けに紹介する「サイバーセキュリティトッ

プセミナー」を開催し、会員企業への情報提供を行った。

### ■大学やスタートアップ等と 企業のマッチング・連携拡大

大学やスタートアップ等との協業により企業のDXを推進することをめざし、10月6日に「関経連DXオープンイノベーションフォーラム2025」を開催した。宇宙航空研究開発機構(JAXA)新事業促進部の松岡一郎氏による講演のほか、バイタルセンシングやVoC\*に関するスタートアップや大学研究室による6件のプレゼンテーション、名刺交換会および個別相談会を実施した。

\*VoC：Voice of Customerの略。顧客の生の声をデータとして収集。

### ■関西広域での統一基準に基づく、オープン データ化、データ連携基盤構築の促進

データ利活用による自治体の行政課題の解決をめざし、関西広域連合と共同で立ち上げた「関西広域データ利活用 官民研究会」では、生成AIを活用したデータ整備実証等に取り組んだ。

また、都市OSのあり方を検討する「都市OSワーキング」では、大阪府等が取り組む官民・広域でのデータ連携基盤の共同利用実証に協力した。

## Beyond2025！さらなるDX推進に向けて

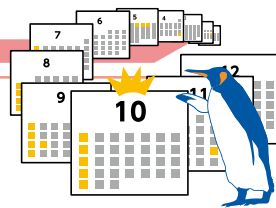
戦略策定以来、セミナー等への参加者や連携団体、DX関連イベントの数は増加傾向にあり、当会の活動は関西のDX推進に寄与してきた。一方、関西が今後さらに「DX先進地域」となっていくために必要な、中小企業向けの支援や自治体との連携のあり方など、最適化すべき取り組みも明らかになってきた。

今後は戦略をアップデートするとともに、各事業を連動させることにより成功事例や知見が循環・拡充し、関西のDX推進につながっていくことをめざして取り組みを強化していく。（産業部 上杉遥奈）

## 10月は「関西デジタル・マンス」！

関西デジタル・マンス実行委員会\*が2023年度に創設した「関西デジタル・マンス」は、毎年10月を関西広域でのDX推進強化月間として定め、官民連携によりさまざまな事業を実施する取り組みである。2025年度は期間中に実行委員会や協力団体主催のセミナー・イベント等を約120件集中開催し、機運醸成をはかった。

\*関経連、関西広域連合、総務省 近畿総合通信局、経済産業省 近畿経済産業局、関西情報センター、情報処理推進機構、中小企業基盤整備機構



### クロージングイベント(10月27日)を開催

関西デジタル・マンスの締めくくりとして開催し、オンラインを含め約230名が参加した。生成AIについて滋賀大学・OpenAI Japanからそれぞれ講演いただいた後、橋本昭弘 関経連DX委員会副委員長をモデレーターに加えたトークセッションを実施した。

#### ■生成AI時代の人間の役割と人材育成のあり方について ーデータサイエンスの観点からー



竹村彰通  
滋賀大学長

AIを使いこなし、かつ、自分の個性も発揮し、人にしかできない価値創造ができるような人材を育てていきたい。

#### ■OpenAIが見据える生成AIと未来

生成AI時代を生き抜く人材になるためには、最先端のAIに触れ、実際に使いながら学ぶことが第一歩だと思う。



長崎忠雄  
OpenAI Japan代表執行役社長



トークセッションの様子

### KANSAI DX AWARD 2025 表彰式

DXに先進的に取り組む関西企業の表彰を実施。先進事例を広く発信することで、取り組みの参考としていただくとともに、関西のDX推進の機運醸成および“DX先進地域としての関西”というブランド力向上に努めることをめざしている。宮田裕章 慶應義塾大学医学部教授を審査委員長に迎え、グランプリを1件、各賞に8社を選出し、クロージングイベントにおいて表彰式を執り行った。



#### グランプリ 旭光電機株式会社(兵庫県神戸市)【事業内容:製造業】

和田貴志 旭光電機代表取締役社長(右)、小林充佳 関経連副会長(左)

#### 取り組み概要

- ・ 運搬作業の自動化や製造過程のデータ収集により効率化を実施。
- ・ コロナ禍の危機から、既存の得意先顧客のみの経営からの脱却をめざし、エネルギーの見える化やレガシー設備のデジタル化が可能なIoT製品を自社開発し、センサー製造業からDXソリューション事業へ拡大。DXの成功体験を共有し、積極的に地域活性化にも努める。



受賞者の集合写真

賞	受賞企業	取り組み概要
金賞 (大企業部門)	関西電力株式会社	全社的な生成AI活用による効率化・業務変革にフルコミット。
	大和ハウス工業株式会社	生産性やサステナビリティ向上に向けたBIM(3Dデータ化)とデジタルコンストラクションの推進。
	日本新薬株式会社	DX専門部署の設置、DX Action Bookの配布、オープンパッジ制度導入によるスキルの可視化など、組織面・制度面から全社を巻き込んだDXを推進。
金賞 (中堅・中小企業部門)	アスカカンパニー株式会社	異常検知や不良原因推定のシステム化、生産性向上、センシング技術の活用による省エネ推進。
	株式会社デジック	町工場発の全員参加型DXにより、データの「貯める・見える・使う」で現場の革新をはかり、デジタル化で作業や棚卸時間を大幅削減。
	株式会社モリエン	社内の基盤システムや蓄積されたデータを活用し、社内向けアプリ・顧客向けアプリの開発を実施。
近畿総合通信局長賞	株式会社USEYA	スマートグラス、AI判定、VR技術等を活用したツールを開発し、リモート製造や技能伝承を支援。
近畿経済産業局長賞	チトセ工業株式会社	コミュニケーションツールやデジタルサイネージ導入によるコミュニケーションの円滑化、職場環境や工場機械の稼働状況の見える化を実施するシステムの自社開発による安全性向上・生産性向上。



「関西DX戦略2025」ホームページにて、DXの関連情報を発信中。  
受賞企業のインタビュー記事も順次更新しています。ぜひご覧ください！→

